

マリンレジャー安全レポート

第七管区海上保安本部
マリンレジャー安全推進室
093-321-2931(担当;上野)

第 117 号 平成 27 年 6 月

死亡事故が発生しています！！

今月は梅雨入りして、雨の日ばかり続くものと思っていたところですが、実際には時折、真夏日を挟んでいます。

曇天の隙間に温かく晴れた日があれば、マリンレジャーに行きたくなる気持ちが急いてしまうのも分かりますが、次の事故事例を参考にして再発防止に努めてください。

～ 6月に管内で発生した事故事例 ～
海釣り客の海中転落（救命胴衣着用）

【事故概要】

仲間とともに瀬渡し船を使って島に渡り、夕方5時頃に釣りを開始しました。

夜11時頃、潮が高くなってきたことから、荷物が流される可能性があると思い、防波堤で荷物を移動させていたところ、波にさらわれて海中に転落し、その結果、肺に海水が入って溺死しました。

【原因・再発防止策】

当庁巡視船到着時、波は海釣り客のいた防波堤を超え、海は非常に荒れていました。

同行していた仲間による通報と救助の初動は迅速に行われましたが、残念ながら海中転落者は死亡してしまいました。

着用していた救命胴衣は、事故者の水没を防ぎました。

しかし、救命胴衣は、口や鼻から事故者の肺に海水が入ることを防ぐものではありません。

海釣りを安全に楽しむためには、**気象・海象情報を把握し、危ないと思ったときには無理せず釣りを中止し、躊躇せず船長に連絡して迎えに来てもらう**ことが必要です。

なお、本件では、救命胴衣着用者が海中転落により残念ながら死亡しておりますが、**海中転落した際、救命胴衣未着用者の死亡率は着用者の1.5倍**（平成22年～26年の全国平均値）となっていますので、引き続き救命胴衣の着用をお願いします。

連絡途絶（救命胴衣着用）

【事故概要】

「入港予定時間を過ぎても帰って来ない」と心配する同業者から118番通報により連絡を受け、当庁巡視船により夕方6時過ぎに捜索を開始したところ、夜7時過ぎに同船の船長から「付近釣り人に携帯を借りて連絡しています。私は無事です」との連絡があり、捜索を中止しました。

入港遅延となった理由は、濃霧により自分の船位が不明となったことでした。

船長は、**携帯電話**を持っていましたが、**電池切れ**の状態でした。

【原因・再発防止策】

先月の本レポートでも、

濃霧で入港遅延となるも、携帯電話が電池切れのため連絡が出来ないという、本件に類似した事例を紹介しました。

このため、**出港時には、気象・海象を出港前に確認するとともに、連絡体制の確保（携帯電話等の充電、防水、充電パックや充電機器を携行、「118番」通報時にはGPS機能をONに切り替え）**し、安全な航海に心掛けてください。

プレジャーボートと漁船の衝突

(プレジャーボート2名：救命胴衣**着用**、漁船2名：救命胴衣**未着用**)

【事故概要】

夜中の1時過ぎに釣りを終えて定係地向け航行していたプレジャーボートと、港内から出港した漁船とが衝突しました。

その衝撃により、プレジャーボートの船長は胸部の外傷が原因で死亡しました。

【原因・再発防止策】

漁船の船長は、プレジャーボートの灯火を確認していましたが、沖合いにある船舶だと臆断して航行したところ、プレジャーボートと港口を通過した直後に衝突しました。

夜間においては、船の推進器による白波の発生状況等は把握しにくいことから、適切な見張りにより灯火を幾度も確認し、周囲船舶の動静を把握することは特に重要です。

しかし、適切な見張りを実施していない船舶があることは事実です。

このため、仮に自船が針路保持船であったとしても、「相手船が自船を把握していないかもしれない」ということを前提として、**必要に応じて**早めの避航に努めてください。

機関故障等による事故(合計5件)

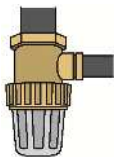
【事故概要】

6月に入り、整備不良や機関取り扱い不良が原因と推測される事故が相次いで発生しており、その内、4隻が航行不能となり、巡視艇等により曳航救助されています。

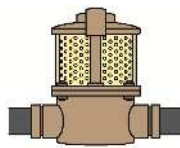
内容として、**フィルター目詰まり**1隻、**電気系統不良**1隻、**冷却水ポンプ不良**による**オーバーヒート**1隻、**取扱い不注意**(**チョーク引き過ぎ**、**燃料タンク切り替え忘れ**)2隻となっています。

【原因・再発防止策】

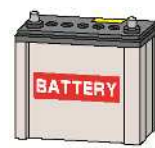
日頃から適切に点検を行っていても、見えない箇所や分解しなければ点検できない箇所が原因で発生する事案も中にはありますが、それでも可能な範囲で出港前の点検を励行することで、1隻でも海難事故を減らすことができると思います。**日頃ボートに乗らない場合**などは、燃料タンクへの雨水や不純物の混入、部品の劣化等も考えられますので、「今日は天気もいいし、釣りにでも行くか!」となった場合などは、**特に出港前の点検を念入りに**することが大切です。



「ゴミ、水分は
ありませんか?」



「フィルターは目詰まり
していませんか?」



「適正電圧が保持されてい
ますか?」「コネクタ接続に
ゆるみはありませんか?」



「燃料は劣化していませ
んか?」「雨等の不純物は
混入していませんか?」

その他(参考事例:小型漁船)

【事故概要】

プレジャーボートによる事案ではありませんが、6月に入って、プロペラが脱落し航行不能となり救助を求めてきた事案が2隻ありました。

1隻は、プロペラ軸が捻じ切れていたことから、素材の劣化(不可抗力)と推測され、ほか1隻の原因は特定されていません。

日頃点検を実施していても、防げない事案もありますが、プロペラ軸が捻じ切れた2隻のうち、1隻は中古船購入後に発生しておりますので、中古船を購入する際には予め確認するようお願いします。

海水浴に潜む危険

間もなく迎える海水浴シーズンを安全に楽しむため、次の事項に注意してください！！

海水浴に関する主な注意点

飲酒後の遊泳は危険

飲酒をすると判断能力や運動能力などが低下し、事故に遭う危険性が高まります。特に、「ほろ酔い」状態が最も危険です。

飲酒後の遊泳はダメ!!



小さな子供から目を離さない

騒いでいた子供が静かになったら要注意!!

悪条件の海での遊泳中止判断

波が高い、風が強いと感じる場合など遊泳条件が良くないときは、無理をせずに遊泳を中止しましょう。

遊泳禁止場所では泳がない

急な深みや流れが速い場所など、危険な場所があるので遊泳禁止なのです。遊泳はやめましょう。

離岸流に注意

沖に向かう流れに注意しましょう。もし流れに入り込んでしまった場合は、慌てず岸と平行に泳ぎましょう。

体調管理を万全に

睡眠不足、疲労蓄積、病気による体調不良の状態では、判断能力や運動能力が低下し、遊泳中の事故に遭う危険性が高まります。体調を整えて泳ぎましょう。

遊泳中の事故では、飲酒無と比較すると飲酒有の死亡率は約2倍!!

すい えい 酔 泳 危 険



遊泳中の事故における
飲酒をしていた事故者の死亡率
(平成22～26年7月～8月)



約2倍



～他管区で発生した海水浴場での事故事例～

飲酒後に発生した事故事例

ビール、日本酒等を飲酒後、酩酊状態で海に入った事故者3名のうち1名が沖合いに流され、気付いた2名が救助に向かったが、3名とも沖合いに流された。同行者がライフセーバーに救助を求め、約50分後に3名とも救助されました。

子供から目を離した際に発生した事故事例

母親等と海水浴に訪れた事故者(6歳)は、母親等が目を離した際に深みにはまり溺水しました。同行者により発見・救助されたが、呼吸がなく、付近男性が心肺蘇生を実施し、意識を取り戻したものです。

一般的には、溺れている人はドラマや映画のように“助けて～”と叫んだり、手を振ったり、バシャバシャ暴れたりできないと言われています。「子供から目を離さない」ことが大切です。

バックナンバー

http://www.kaiho.mlit.go.jp/07kanku/gyoumu/kyunan/marine_anzen_report/

海で命を守る

3つのポイント

○ライフジャケットの常時着用

○連絡手段の確保

・防水携帯電話の携行!

新規
+
通報位置特定のため、
通報時にGPS(位置情報)をON!

○海のもしもは「118番」

